

細川嘉七（變り名は多く） 評論家。明治二十一年九月二十七日高山縣生れ、昭和二十七年十一月一日（八八―一九三二）。大正六年東京帝國大學法科大學政治學科卒。大原社會問題研究所研究員となり、労働・植民地問題等々研究。社研解散後は滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）囑託等々務め、昭和研究会に参加、更に風見章、尾崎秀實等と中國研究所を設けしめた。昭和十七年雑誌「改造」に發表した「世界史の動向と日本」が治安維持法違反とせられ檢擧、所謂横濱事件の發端となる。二十一年日本共產黨入黨、二十二年參議院議員、二十五年再選も、翌年ハム廠追放處分も受く。社會科學研究所所長。

譯著、カール・マルクス著「猶太人問題と論争」（久留間敏造共譯、大正十四年十一月二十一日同人社書店。）、ち、昭和二年七月二十一日岩波書店「岩波文庫」、トマス・ホッヂスキ著「労働辯護論」（大正十五年十月八日我等社、同人社書店發賣「我等叢書」）、「新世界の構想と現實」（編、昭和十七年五月二十五日中央公會論社「大東亞基礎問題研究」）、「愛國の人々を訴う」（他七名合著、昭和二十四年八月二十日チウカ社）等。「故細川嘉七葬儀の記録」（昭和二十八年一月故細川嘉七葬儀委員会）がある。

